

城崎温泉の旅 2021



2021年4月

旅のチカラ研究所 植木圭二

娘家族の住む京都を拠点に日本海側の天橋立や城崎温泉に妻と1泊2日の小旅行をしてきた。最近人気急上昇中の城崎温泉の魅力について報告したい。

■日本三景の天橋立

交通量の少ない山の中の高速道路を城崎温泉に向かって快調に走っていると「天橋立」という文字が目に入ってきた。確か天橋立は丹後半島を挟んで城崎温泉の反対側にあると記憶しているが距離もあまりないようだ。妻は天橋立を見たことがないと言っており、私も学生時代の日本一周旅行で立ち寄っただけなので、何と45年ぶりに訪問することにした。

そう決めると、まずは近くの道の駅にある観光案内所に立ち寄る。最近の私は自分の知識のみに頼ることなく謙虚に地元の専門家に聞くことにしており、それに結構助けられることが多いからだ。

窓口で対応してくれたのはまだあどけない新人のような女性担当者だが、親切に散策ルートやお勧めの駐車場までいろいろ教えてくれた。彼女の話では天橋立そのものは約3kmの砂州なので、そこに行っても砂浜が続くだけで、上から見ないと全貌が分からないから山に登ることを勧めてくれた。標高130mにある「天橋立ビューランド」まではリフトかモノレールで登ることができるという。

早速リフトに乗って「飛龍観」と呼ばれる展望台に着くと見事な光景が目に入って来る。さすがに昔から日本三景と呼ばれている場所だと、妻が感心している。

青い海、白い砂、緑の松林のコントラストが見事に調和して絶景を造っている。さらにこの時期は桜の花も満開なのでピンクも加わって申し分ない。

ここが飛龍観と呼ばれる理由は松林の緑の形が龍のように見えるからで、龍の頭が手前にあり尻尾が遠方に向かって伸びている。しかしこのままでは登り龍にならないので、これを逆さまにするために“股のぞき”で見ることによって龍が登るように見えるので飛龍観と名付けている。従って展望台には股のぞき台という低いベンチがいくつも置いてある。



【天橋立ビューランドから天橋立を見る】

■ソースカツ丼

ビューランドの中のレストランに立ち寄ると面白いものを発見する。それはソースカツ丼で、アサリを串に刺して揚げた串カツを使ったソースカツ丼だ。丼ぶりに盛った白いご飯の上に細く切ったキャベツを敷いてアサリの串カツ 5 本を乗せてソースがかかっている。

店の人に聞くとこの付近では魚や蟹が多く獲れ、貝もたくさん獲れるので考えた料理だという。従ってこの店だけのオリジナルで他では見かけないという。

ソースカツ丼評論家を自認する私は早速注文して食べてみると、これがなかなか美味い。細く切ったキャベツは甘口のソースとの相性も良い。そして何よりも中身がアサリなのでヘルシーな感じがするから嬉しい。



【アサリのソースカツ丼】

妻はアサリそばを注文した。アサリだけに“あっさり”とした味で、関西風の出汁との相性も良く、満足そうに食べていた。

■城崎温泉

城崎温泉には午後 2 時頃に着いた。私たちが本日泊まる大江戸温泉物語「城崎温泉きのさき」には大きな駐車場があり、チェックインできないまでも車を置かせてもらい温泉街を散策しようと聞いてみると、運よくチェックインすることができた。

初めて訪れる城崎温泉の情報を得るために宿のフロントにいる親切なお姉さんにあれこれ聞くことができた。

城崎温泉は街の中にあるいくつかの外湯、つまり日帰り入浴施設が有名とのことでお勧めの外湯や観光スポットを聞くことができた。さらに外湯に入るには入場料が必要だが、宿泊客はどの外湯でも自由に入ることができるという湯めぐりパスをいただける。これはありがたい、これにより本日と明日の外湯が無料で入ることができる。

早速、私たちは車を置いて温泉街に繰り出す。

街は川沿いに柳の木が植えられ、風情のある街並みになっている。川を挟んで風情ある街並みと言えば山形の銀山温泉だが、こちらの方が銀山温泉よりも街のサイズが数倍大きい。さらに海の近くなので旅館や飲食店に混ざって魚介類を売る魚屋も多い。新鮮な魚や蟹、そして先ほど食べたアサリなどの貝類も店頭には並んでいる。どこに行っても魚屋は威勢がいいので街を活気づけてくれる。

活気づけているのはそういった店や街並みだけでなく、実は観光客かもしれない。そのくらい観光客が多く歩いている。それも本日は平日で、世の中は依然として新型コロナウイルス感染症で自粛が続いているのにこの賑わいは凄い。さらに驚くことはその観光客に若者が多いことだろう。春休みということもあるが、学生らしき若者たちの旅行、カップル、子連れのファミリー層も多い。逆に他の温泉地では多く見かける年配の人たちの姿は意外に少ない。



【城崎温泉街の街並み】

■2 匹目のドジョウ

温泉街のはずれに大師山があり、山頂の展望台からは温泉街を一望できる。標高 231m の大師山に登るにはロープウェイがあって、天橋立の絶景を見て味をしめた私たちはそのロープウェイに乗ることにした。麓の駅と山頂駅の間地点に温泉寺という古い寺があって、温泉寺駅で途中下車もできるようになっている。

乗車チケットは温泉寺駅往復と山頂駅往復以外に 3/4 コースというのがあって、帰りに温泉寺に立ち寄って歩いて石段を降りて戻ることができる。ただ石段は約 500 段ということで結構気合いが必要かもしれない。もちろん私たちは 3/4 コースのチケットを購入してロープウェイに乗る。すると 10 人くらいの乗客は皆若い人たちばかりだ。

山頂の展望台からは温泉街はもちろんのこと、城崎温泉から海に繋がる円山川とその河口の津居山湾まで見ることができる。ただ数時間前に見た天橋立と比べるとどうしても見劣りしてしまう。それもそうだろう、かたや日本三景でその眺望を売りにしているが、温泉が売りの城崎では勝負にはならない。やはり 2 匹目のドジョウはいなかった。



【大師山から見る城崎温泉 遠くは円山川と津居山湾】

下山時に立ち寄った温泉寺は歴史ある寺で、717 年に道智上人が修行した地から城崎温泉が始まったという。ロープウェイの温泉寺駅と本堂が直結しているという珍しい寺でもある。ついでにこのロープウェイも歴史的なもので各駅の施設は有形文化財として登録されている。

寺を参拝して 500 段の階段を降りて下山した。新緑の季節には多少早い春の気配を感じながらの下山も気持ちよい。

■外湯巡り

一通りの散策を終えて外湯巡りを始める。

最初に立ち寄ったのは「御所の湯」、立派な外観で重厚な造りをしており、いかにも御所という名前が似合っている。風呂は露天風呂だけだが、岩でできた大きな浴槽が 2 つあって目の前の山から人工の大きな滝が流れ落ちているという解放感抜群の風呂になっている。温度も適温で良く管理されている。やはり宿のフロントで聞いた情報は正しかった。お姉さんに感謝だ。

次に入ったのは「一の湯」、こちらは街を歩いていたら“洞窟風呂”という看板が偶然目に留まったので立ち寄った。大きな内風呂の他に半露天の大きな洞窟風呂があって湯船の底からお湯が湧き出ている。私は小さな洞窟風呂を想像していたが、かなり大きいので正直驚いている。内風呂も大きく、採光がしっかりしており明るい湯殿になっているから気持ち良い。



【御所の湯】



【一の湯】

「さとの湯」は JR 城崎駅の隣にある外湯で、威風堂々とした建物になっている。この施設は内風呂、露天風呂の他にジャグジーやジェット風呂があり、サウナも 3 つあってもちろん水風呂も完備されている。サウナ通を自認する私にしてこれは素晴らしいと感心してしまう。サウナ以外もどの風呂も素晴らしく、もはや大きな旅館やホテルでもこれほど充実した風呂はないだろう。風呂から出て妻と話をすると、女湯はサウナが 4 つあったという。それも温度が微妙に異なり、木製のリクライニングチェアまで用意されていたというから妻は大感激をしている。

最後に行った「地蔵の湯」はお地蔵さんを祀ってある小さな祠（ほこら）が入口にあるが、名前よりもずっと近代的な施設になっている。大きなひょうたん型の湯船は深さが 2 段になっており、湯船の半分はジェット風呂にもなっている。



【さとの湯】



【地蔵の湯】

これだけ充実した立ち寄り湯が温泉街のいい場所に点在しているので、昔は名のある旅館だったに違いないと私は勝手に想像して、ある施設でその旨を従業員に聞いてみると返ってきた答えは全く予想が外れるものだった。それは「どの外湯も昔からずっと外湯で身を立てており、元旅館というのは聞いたことがない」という。

昔からお客を泊めずに入浴だけで商売が成り立っているということが、私にはにわかには信じ難いことだ。

7 つある外湯のうち 4 つに入って宿に戻ったので、さすがに宿の風呂に入らずに夕食を先にとった。

夕食を食べて一休みしてロビーに行くと、シャトルバスから降りて宿に帰って来た浴衣を着た集団と出くわした。彼らはこの宿の宿泊客で、夜の外湯巡りを楽しんできたようで手にはタオルなどが入ったカゴを持っている。そのカゴは宿が外湯巡りのために貸し出しているもので、温泉街の中心までシャトルバスを 10 時頃まで運行させている。

私たちは昼間の温泉街しか見ていないが、きっと夜も素晴らしいのだろうと思いながら妻と部屋で飲み直した。その会話の中で“城崎温泉は外湯という武器を上手く使いこなしている”というキーワードがあった。

■城崎温泉の真価

この宿は大きな施設なので結構立派な内風呂や露天風呂があるのに宿泊客は夜の温泉街に立ち寄り湯をするために出かけていく。これは他の温泉地ではあまり見かけないことで実に珍しい。

そもそも大きなホテルや旅館はお客に宿の中でお金を使って欲しいので囲い込みをするのが常識だ。それなのに外湯の湯めぐりパスまで出している。もちろんその費用は無料ではなく、観光協会で聞いた話では外湯の入場料（700 円）は宿と外湯との契約によってまとめて宿が外湯に支払っているという。

以前に草津温泉の旅行記でも書いたが、多くの温泉地が衰退していく理由がこの大型ホテルによる囲い込みにある。それは大型ホテルが建つと収益を上げるためにホテル内に飲食店や売店、エステ、アミューズメントなど全てを用意する。そのために宿泊客はホテルから出ないで済んでしまい温泉街に行かなくなり、温泉街は活気や魅力を失っていく。結果として温泉地全体が衰退し、巡り巡って大型ホテルにも宿泊客が来なくなるという悪循環に陥る。

草津温泉の場合は湯畑という街のシンボルに観光客が集まるので、湯畑近くに食事処や買い物する店が多くできる。それもグルメの店や魅力的な店も多く、宿泊と食事が分離されるという状況になっている。だから草津温泉には朝食だけの宿 B&B (Bed&Breakfast) も多い。宿泊と食事を分けることによってお客は自分の好きなものを食べ、安く泊まることもでき、それが若者や外国人の支持を得ている。まさしく好循環を作りだしている。

ここ城崎温泉もその構図に似ている。草津のように湯畑はないが、見事な街並みと外湯がある。宿泊と食事の分離だけではなく入浴までも分離しているから恐れ入ってしまう。

この宿泊と食事と入浴の分離は今に始まったことではないようなので、草津温泉のようにそのスタオルが最近の若者や外国人に受け入れられて人気急上昇している理由なのだろう。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っ各項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

総合点（平均値）で5段階の75%、つまり3.75をオススメの目安としている。特に4.00を超えるには驚き感動が少なくとも1項目以上あるからオススメ度は高い。

大江戸温泉物語「城崎温泉きのさき」は泉質3、風呂4、料理4、コスパ4、サービス4、建物・部屋4、立地環境3、総合点3.71になった。

泉質はカルシウム・ナトリウム-塩化物泉で低張性弱アルカリ中性泉、pHは6.9、湧出温度は59℃となっている。

城崎温泉街の外湯もほぼ同じ泉質になっている。

■旅の記録

実施は2021年4月2日（金）～3日（土）の2日間、その行程を以下に示す。

- ・1日目 9時に車で京都出発、11時天橋立ビューランドで昼食、知恩寺、天橋立散策、14時に城崎温泉到着し、大江戸温泉物語「城崎温泉きのさき」にチェックイン、ロープウェイで大師山と温泉寺を見学、「御所の湯」、「一の湯」、「さとの湯」入浴
- ・2日目 宿をチェックアウト後、「地蔵湯」で立ち寄り入浴後、帰途につく

費用は2人で約35000円になった。

- ・宿泊費 24176円（2人分1泊2食付）
- ・交通費 高速道路、ガソリン代など約3000円
天橋立ビューランドのリフト・モノレール1600円（2人分往復）
城崎温泉ロープウェイ1520円（2人分3/4コース）
天橋立ビューランド近くの駐車場500円（終日）
- ・その他 1日目の昼食（ソースカツ丼850円、アサリそば650円）
2日目の昼食（高速道路のSAでそば、うどん合わせて1300円）
飲み物など約1500円